

# 門川中 SPS 通信 第1号

令和3年 9月 1日(水)

《防災の日》

文責:渡邊 祥吾(SPS 担当)

## 本校は、九州で最初に「SPS」に認証された学校です

門川中学校は、令和元年度より学校独自の学校安全（生活安全・災害安全・交通安全）の推進という目標を明確に設定して、その目標と計画を達成するために組織の整備と実践、分析を行ってきました。そして、令和3年3月に、日本SPS協議会から九州初の「セーフティプロモーションスクール（略称SPS）」として認証されています。本年度も、昨年までの流れを汲みながら、全校生徒が様々な視点から安全に対する意識を高め、実践力を高めることができる取り組みを展開していきます。以下、SPSに関する生徒活動の中心となるSPSサポーターを紹介します。



### 令和3年度 門川中SPSサポーター

#### 3年生

金丸カノンさん、川邊凌子さん、中城歩華さん、  
中野美空さん、金丸泉翔さん、神井菜月さん、  
黒木瑞希さん、兒玉晴菜さん、藤高葵彩さん

#### 2年生

平塚りほさん、一瀬優心さん、河野楓花さん、  
水永純平さん、川越結有さん、壹岐光さん、  
上野南さん

#### 1年生

岩田康孝さん、坂本鈴さん、藤元花歩子さん

この19名が、校内のSPS活動をリードする「SPSサポーター」として、安全に関する学習での進行役などですでに活躍をしています。今後はさらに学びを深め、学校のみならず地域を守る実践力をもった人になってくれることを期待しています。

## 防災学習を行いました

7月2日（金）に、門川町総務課防災係・県防災士ネットワークおよび日向市消防署の協力をいただき、本年度の防災学習を行いました。この学習もSPS活動の一環として、生徒の防災に対する意識を高め、スキルアップすることを目的として行っています。本年度は、1年生は自宅周辺で地震・津波が発生したことを想定した図上訓練、2年生は心肺蘇生法の訓練、3年生は避難所運営のゲーム体験という内容でした。ここで、各学年が学習した内容を、SPSサポーター・学年リーダーたちがご紹介します。

### 1年生（ハザードマップを使用した図上訓練）



ハザードマップに自宅や避難所、危険箇所等を書き込み、「わが家の防災マップ」を作っています。

私たち1年生は、ハザードマップを使用した図上訓練に取り組みました。この訓練では、県防災士ネットワークの方々に説明を受けた後、一人一つ防災マップをもらって、自宅の周辺にある危険な場所、避難場所などを書き込みました。もしものときに備えて、町内を回って危ない場所を確認し、記入していきたいと思っています。

（SPSサポーター・学年リーダー 岩田康孝）

### 2年生（心肺蘇生法の訓練）

私たち2年生は、心肺蘇生法の訓練に取り組みました。日向市消防署の方々に胸骨圧迫（心臓マッサージ）を教えていただきました。これは、一定のスピードでしばらく続けて行うのですが、これが想像していたものより難しく、全身を使って強く押すので体力をかなり使いました。他にも、AEDの使い方も教えてもらい、理解することができました。とてもよい体験をさせていただきました。もしこの先、心肺蘇生が必要な場面に直面したら、学んだことを生かして命を救う手助けをしようと思います。

（SPSサポーター・2学年リーダー 一瀬優心）



### 3年生(避難所運営ゲームの体験)



避難者の状況が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図に配置しながらゲームを進めました。避難所で起こる様々な出来事を模擬体験しています。

私たち3年生は、避難所運営ゲームの体験をしました。届いた物資の把握や、スペースの割り振りをグループで話し合いましたが、とても難しかったです。衛生管理も大変そうでした。避難所を運営する方々はとても大変だと分かったので、避難者もお互い協力し合うことが大切だと思いました。  
(SPSサポーター3学年リーダー 金丸カノン)

今回の学びを、「地域に生きる一人」として生かしていきましょう。

## 防災の日・防災週間をきっかけに

防災の日は、「政府、地方公共団体等関係諸機関をはじめ、広く国民が台風高潮、津波、地震等の災害についての認識を深め、これに対処する心構えを準備する。」こととした日本の記念日です。毎年9月1日を「防災の日」として定めており、この「防災の日」を含む1週間を「防災週間」と定めています。大正12年9月1日は関東大震災が起こった日です。午前11時58分、マグニチュード7.9の大きな揺れが関東地方一帯を襲いました。お昼時だったこともあり、火災が連鎖的に発生し被害が拡大、死者・行方不明者14万人以上、被災者340万人を超える大災害となりました。この経験を風化させず、災害について考えるきっかけとしたり、防災に対する意識を高めたりすることを目的に、昭和35年に「防災の日」を制定しました。地震に限らず、今年は大雨による災害も相次ぎ、一瞬にして尊い命が奪われました。「防災の日」「防災週間」を迎えた今、以下の「3ステップ」にそって、家庭での非常時の備えを確認してみてください。

●非常時に備える3ステップ。まずは、1次から。ついで、0次・2次も。

**0次の備え**  
いつもケータイ!



「非常持ち出し品」として備えるものの中から、携帯ができそうなものは、いつも使うバックや、ポケットに入れ、身につけてみよう! いつでもどこで被災するかわからない災いへの安心感を持ち歩こう。

**1次の備え**  
非常持ち出し品



家庭や勤務先……1日の多くを過ごす場所には「非常持ち出し品」を備えよう! とっさの時に、さっと持ち出して逃げられるコンパクトな1バック。  
●被災の1日、命が安全なところまで逃げるときにこれだけは持っていたい、という最低限の備え。  
●合わせて頭・足元を守って逃げられる備え。  
●どこに置く? 玄関・寝室……持ち出しやすいところに、車のトランクに予備を置くのも良い。

**2次の備え**  
安心ストック



非常時、ライフラインが途切れ、もしも助けの手が届かなかったとしても、何日間かは自給自足してしのげる物品を備蓄しよう!  
●キッチンや、押し入れ、ガレージ、物置などにまとめ取り出しやすく、持ち運びしやすく。  
●飲食など消耗品は、少なくとも3日間分~備えたい。  
●ライフラインが止まった家で、被災生活を過ごすことになるかもしれない時に、安心なセットを考えよう。

●グッズを揃える心がけ、4つ。

**1年に2回は、チェックしよう!**

■次のチェック日を決めておこう。  
■飲料・食品の賞味期限、薬品や電池の使用期限等をチェックして新しいものに交換しよう。それぞれの品物が古くて劣化していないか、確認しよう。  
■保存食品は交換の際に試食しよう。  
■衣類など、季節で変わる必需品を取り替えるために、年2回、春と秋。

**使い方を覚えよう、身につけよう!**

■つかい方を身につけてこそ、いざという時に役立つ。慣れ親しんで、身体で覚えられるような機会を持とう。

- ・ロープの結び方
- ・簡易トイレのつかい方
- ・救急箱の中身、ケガの手当。
- ・三角巾のつかい方
- ・簡易防寒具(サバイバルブランケット) ……etc

**日用品の汎用性。工夫・知恵を知ろう!**

■日用的に使うものは、いざというときにさまざまな用途で役立てられる。それぞれの可能性を知り、実際に試してみよう。  
・新聞紙、ラップ、ビニール袋……

■これまでの被災経験者の声から、知恵・アイデアを調べてみよう。  
■情報をウェブサイトなどでも入手・確認してみよう。

**「自助」に加えて、「共助」の備えも。**

■いざという時は誰もが、助け、助けられる立場になる可能性がある。わが家の備えだけでなく、町内会・自治会などでの共同の備えが、どこに、どのようにあるか、確認しておこう。  
■自治体からのハザードマップ、非常時の行動、備えのインフォメーションを確認しておこう。  
■地域の防災訓練に参加しよう。

【阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター『減災チェックリスト』より】

これらの備品のチェックと合わせて、緊急時にどこへ避難するのかを家族で確認しておくことも大切です。地震・津波が起きた際の避難場所、風水害が起きた際の避難場所、自治体が設置した避難場所だけでなく、安全な親戚宅や知人宅へ行くことも「難」を「避」けることにつながります。家族がバラバラになることがないように、日頃から打ち合わせをしておきましょう。避難場所まで歩く「防災さんぽ」もオススメです。

門川中学校では本年度より「緊急時における生徒の引き渡し連絡カード」を各家庭に作成していただきました。学校管理下で災害が起きたときには、「安心安全メール」での連絡の後、このカードをもとに登録された保護者の方に引き渡しをさせていただきます。ご家庭でも、離れた場所で災害に遭ったとき、どこに行けば家族が揃うのか、この機会にぜひ話題にしてみてください。